

ミュージカル・カンパニー「いちごハウス」
「絆」をテーマにした歌詞募集応募作品の選考経過報告

「絆」をテーマに多くの方に歌ってもらえる曲を公募し、選ばれた作品に嵐の「時代」の作詞作曲等で活躍する TSUKASA 氏が曲をつけてくれるという募集。応募数は全国から寄せられた 27 点。どこで知ったのか遠く北海道からも応募があったという。まずは応募していただいた方々に感謝を述べたい。

さて我々選考委員 5 名で、この中から 1 つをどう選ぶのか、事前に送られた応募作品から各人、いくつか絞り込んで 10 月 19 日の晩に初会合。最初は応募要綱を確認し、選定方法について話しあい、その結果、各自いいと思うものを 5、6 点あげていくこととなった。各自説明しながら挙げていった結果は選考委員それぞれ着眼点も異なり、違いがある。なかなか難しい。その中でも重なっているものから俎上に乗せて、何がいいと思う点か、何が気になるかという意見を出していった。それは行きつ戻りつの、議論であった。それぞれいい所があり、捨てがたい。こんなにも選考委員を悩ます力作ばかりということである。

募集案内にあるように曲がつけられることをイメージしたものということで、言葉が少なすぎる、または多すぎる詩、また皆で歌うには難しい詩は、たとえ詩として訴えるものであっても外していった。実際のところ、その作業はここに書くほど簡単ではなく、それは議論に議論を重ねてかなりの時間を費やし、選考委員も頭と神経をかなり使う集中した作業であった。そして 3 作品に絞られていった。さて、この 3 作品の中から 1 つに選ぶということにさらに難航した。それぞれ良いところの特徴が異なり、絞り切れない。そこで TSUKASA さんが、ではそれにちょっと曲をつけてみるからそれで判断したらと提案。え、それはたいへんな作業では？でも、サビの部分だけでもつけてもらえたらと、その好意に甘えて、曲をつけてもらってからと、次の 11 月 5 日に最終審査は延ばされた。

そして 11 月 5 日の晩に選考委員は再度、集まった。TSUKASA さんが曲をつけた作品を披露。なんとサビだけでなく、コーラス全部に曲をつけて伴奏も入れて、しかも自ら歌って録音してきた作品を披露してくれた。さて、これはさらに選考委員の頭を悩ました。それぞれ違い、それぞれがいい。それぞれの特徴を言い合い、また議論が続くが決まり切れず、再度順番を変えて聞く。結果は、やはり各々いいところがあって決める事が難しい。募集にはたしかに入選 1 作品、プロの作曲家 (TSUKASA さん) により曲が付けられます、とあ

る。だけれど、もう既に TSUKASA さんによって 3 作品に曲がつけられてしまっている。1 作品に絞る必要があるのだろうか、またそうした場合に 3 作品に順位をつけるのか？順位の意味は？などと話し合った。市民がミュージカルをつくり演じて、市民で楽しいまちをつくっていこうという事ならば、順位をつくる意味よりも、もうすでに曲は付けられたのだから 1 作品のみならず 3 作品入選でよいのではないかと話し合い、結果、3 作品を入選とした。

「キミとずっと仲間」というタイトルの曲は、具体的な空の広がりや吹き渡る風など台地のニュータウンなど地域の特徴を表し、夢や時間をつなぐという絆の広がりがうたわれていて、ミュージカルらしく全員で歌っている情景が浮かぶような詩であった。

「ありがとう」という詩は親しい間柄だからこそなかなか「ありがとう」と言えない気持ちを歌に託している思いが「2 度目のありがとう」「3 度目のありがとう」と「ありがとう」のくりかえしが効果的に出ていた。

「BEST FRIEND」という詩は「どんなにいい言葉ならべたって」という出だしや、「君との時間は特別だから」と時間を重要なキーワードとして入れている点やシンプルさゆえに多くの人に伝わり、広がって行く可能性が感じられる。

キーワードだけの応募も含めて、応募作品に多かったキーワードを見ると、夢、仲間、笑顔（微笑）、感謝（ありがとう）、つなぎ、風などが比較的多くみられた言葉である。友人関係、親子関係などふだん互いに言えないような言葉も詩の中だったら思う存分の気持ちを託して短い言葉で伝えられる。

選考委員には私はたぶんに「いきいきラーバン活動助成」の審査委員長であったから声がかかったのだろう。詩の専門家でない私には大任であったが、応募された詩を読んでいると、なぜかこちらも元気になってくる。応募者の年齢は小学校 3 年生から 70 歳まで幅広い。入選作も 40 代の女性、小学生、そして中学生である。ただし選考には年齢は考慮していない点だけは断っておきたい。絆のイメージを強く伝え、多くの人に歌ってもらえる歌を選んでいった結果である。千葉ニュータウンの発展も寄せられた詩の言葉で描かれるように人々の絆が強くなるような活動にかかっている。この企画もそうであったし、またさらにこれを契機にその絆が強まって行くことを切に願う次第である。

2009 年 11 月 5 日 木下勇（千葉大学大学院園芸学研究科教授）

「絆」選考会の感想

「絆」をテーマにした歌詞を書くとき、応募者の方々の多くは自分の身近にある「絆」を、まず思い浮かべただろうと思います。応募作品には、家族や友達や恋人など、さまざまなかたちの「絆」が描かれていました。それら対象への気持ちを真すぐに書いた歌詞もあれば、少し客観的にとらえて普遍的なものになるようにしつらえなおした作品も見られました。そうしたなかで入選の三作品に共通したのは、作者が自分にとっての「絆」の対象を強くイメージしながら書いたものである、ということだったように思います。入選作と、残念ながら入選に到らなかった作品とを分けた、その差は（それはほんのわずかではあるのですが）、どれだけ強く「絆」の対象をイメージできていたかにあったと、ぼくには感じられました。作品の完成度は、その思いの強さに引きづられるようにして後からついてくるような、そんな気さえたのです。歌詞に刻まれたことば一つひとつに作者の思いが乗って、選考会の会場に伝わってきたようでした。

選考会で一作品に選びきれなかったのは、そうした作品に込められた力のためでもあり（選考委員の優柔不断もあるかもしれませんが）、結果、作曲家のTSUKASA氏のご好意によって三作品に曲がつけられたのは、とても幸運なことでした。これから三つの歌が、どのように歌われ成長していくのか、選考にたずさわらせていただいた一人として、すごく楽しみにしています。

2009年11月12日 飯野健雄（脚本家）

いっぱい作品 読ませて頂きました。
どれもこれも 気持ちのこもった暖かく すてきな作品ばかりで
選考にはとても迷い、
詩の持つ個性をいかして それぞれにメロディをつけてみたい と
思うほどでした。
みなさんの暖かい絆への思い 伝えて下さってありがとうございます。
感動しました。

2009年11月 TSUKASA（作曲家）

「絆」プロジェクトの選考に参加して

選考委員に私が?! いいのかな?と思いました。絵本作家という肩書きはあるものの、わたし、未解決凶悪事件の遺族ですよ? お断りした方がいいのかな・・・とためらう思いがありながら、いちごのあったかさに惹かれ、また皆さんにお目にかかれるご縁に引かれ・・・お引き受けしました。断らないでよかったあ! たからものの三曲の誕生に立ち会えたことは本当に素晴らしい体験でした。

いちごメンバーの「ピピン!」という閃きから生まれたこのプロジェクト。実は、わたし「入江 杏」と、いちごメンバーとの出逢いも一瞬の「ピピン!」からです。たまたま見たいちごのミュージカルのあったかさにピピン!と来たのは、事件から7年たったある日のことでした。

事件というのは2000年末に起きた世田谷事件のことです。ご記憶の方もおいででしょうか? 私は隣家に住んでいた大切な妹一家4人を、何者かに殺害され突然失ってしまいました。今も事件は未解決です。8歳の姪「にいな」と6歳の甥「れい」は、私にとって子供同然の存在でした。私のペンネーム「入江 杏(いりえ あん)」は、一家への思いをこめて、姪と甥の名前を組み合わせで作った名前です。被害者にも遺族にも何の落ち度もない、と思いながらも、なぜ、大切な家族のいのちが失われるのを防ぐことができなかつたのか・・・行き場のない悲しみ、理不尽な事件への怒り、苦しみに苛まれる日々。悲嘆からの回復=快復を辿るグリーンケアの道程にあつて、一冊の絵本を出版しました。「ずっとつながってるよ こぐまのミシュカのおはなし」(くもん出版 2006年刊行)がその絵本です。姪と甥がかわいがっていたぬいぐるみのミシュカが、喪失体験から再び前を向いて歩いて行くまでを季節の巡りの中で描いたお話です。

巻末に、絵本と同じタイトルの歌を載せました。「ずっとつながってるよ」(入江 杏 詞・内田 ゆう子 曲) 天の星になった4人に、ずっとずっとつながってるよ、わすれないから・・・とやさしく静かに呼びかける曲です。年に一度開いている4人の追悼会にこの歌を歌ってほしい。でも誰が歌ってくれるかしら? そんな想いを抱いていた私が巡り合ったのが、いちごハウスのミュージカル「おいしいのぼうけん」でした。ミュージカルの脚本、構成、演出は勿論、素晴らしかったし、歌も演技も素晴らしかった。でも何より胸に響いた

のは、一人一人が心開いて、その人らしく、きらきら輝いていること。「歌ってほしいのはこんなグループだ！」私は勝手にピピン！と閃いて、世田谷とは縁もゆかりもない、千葉の「いちごハウス」の方々に「是非にも！」とお願いに来ました。まったく迷惑なことだったのでしょねえ、ごめんなさい。

でもおひさまみたいにあったかい「いちごハウス」の方々は、嫌な顔ひとつせずに、心をこめて歌ってくださったのです。柳田邦男さんをお迎えした追悼の集い「ミシュカの森2008 悼む思い つながるいのち」では、いちごの皆さんが歌って下さった曲が多くの方々の心を捉え、大切な絆を紡いでくださいました。

事件後、時にうろうろし、はじっこにちぢこまっていた私が心を開いて行けるようになったのは、こうした繋がった絆のおかげです。だからこそ、この「絆」プロジェクトに参加できたことは本当に嬉しかった、私にとってかけがえのない体験となりました。心から感謝しています。

ピピン！の閃きは一粒の種でした。種は言葉をつくりました。応募下さった皆様一人一人の言葉は、種から生まれた双葉です。その言葉が行動をつくり、行動が習慣をつくり、習慣が性格をつくり、性格が運をつくり、運が生命をつくる。一粒の種が生命という大きな花を咲かせました。この花はみんなの住むこの街を美しく彩ることでしょう。一期一会の出逢いから生まれたたからもの3曲。いちごのメンバーが歌ったら、と思うだけでわくわくします。

ありがとう！

2009年 11月13日 入江 杏（絵本作家）